

改善・取り組みの実例

問題点・課題	改善策と効果
<p>ハード面での職場改善については、障害の種類によって、一方のメリットが他方のデメリットになることもあった。</p>	<p>すべての障害種類、特に車椅子使用者と視覚障害者の職場内での通行の安全を確保するため、1.5m幅の通路の確保、要所へのすべり止めの材質の使用および自動扉の設置を行った。</p>
<p>視覚障害者にとって、事務所内の配置の理解にオリエンテーションが必要であった。</p>	<p>職業コンサルタントやチームリーダーのサポートにより、現在では事務所の構造・配置を熟知。社内では歩行杖を使用していない。通常は他の従業員が2人を視覚障害者と意識しないほど。</p>
<p>視覚障害者のためにパソコン操作の環境設定が必要となった。</p>	<p>画面読み上げソフト、高性能ヘッドホンおよび点字プリンターを設置することにより、視覚障害者のためのパソコン操作の環境を整えた。</p>
<p>視覚障害者と他の従業員との日常的なコミュニケーションがうまくいかない。</p>	<p>日常的な声かけのほか、視覚障害者には話しかける前に必ず名前を名乗るようにした。また、業務上の連絡は頻繁に視覚障害者に話しかけるだけでなく、画面読み上げソフトの導入により、メールを通じて相互に情報交換できるようになった。</p>
<p>社内回覧文書や給与明細など個人情報もチームリーダーや障害者職業生活相談員が代読していた。</p>	<p>これらの個人情報をデータ化し、パソコンの画面読み上げソフトと高性能ヘッドホンを使うことで、他人に知られたくない情報を含めて自分で入手できるようになった。</p>
<p>視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者が住む単身赴任者寮での安全対策が必要であった。</p>	<p>警備会社と契約することで、万一の場合に備え、安全対策を講じている。</p>
<p>視覚障害者のうち1名については、通勤時間帯がラッシュ時になり、かつ遠距離通勤のため、安全・健康面への配慮が必要となった。</p>	<p>特急列車の通勤定期券を認めたことにより、乗車の機会が増え、また、混雑しない車両への乗車が可能となった。これにより、安全・健康面の問題はほとんどなくなった。</p>
<p>視覚障害者の通勤途中にある交差点の通行の安全が確保されていない。</p>	<p>所轄警察署に陳情し、通勤途中の信号機のある交差点に、音声対応装置と点字ブロックを設置してもらうことにより、交差点の通行の安全が確保された。</p>
<p>視覚障害者の職務遂行の能力の向上に伴い、視覚障害者ならではの職務の創出が課題となった。</p>	<p>ホームページのアクセシビリティについて、自ら悩み解決してきた課題が、教育用テキストの制作依頼となって実り、さらに他社のホームページの検証・アドバイスや制作などにつながり、新しい分野が拓けつつある。</p>